

第1059回教育委員会会議録

1 日 時 平成29年4月28日(金) 午後4時00分～午後5時30分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 森近教育長 吉井委員 清川委員 西野委員 八田委員 南部委員
松田教育振興監 佐々木学校教育幹 淵本企画幹(義務教育)
片柳教育政策課長 清川高校教育課長 田中課長(高校学力向上)
浦井課長(小中学力向上) 吉川高校教育課参事(特別支援教育)

4 議 題

日程第1 第1号議案 平成30年度福井県公立学校教員採用選考試験について

日程第2 第2号議案 福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

日程第3 第3号議案 福井県心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について

5 審議事項

(1) 開会宣告 午後4時00分

(2) 会議録署名人の指名 清川委員 南部委員

(3) 議事要録

教育長 本日の日程第2 第2号議案から日程第3 第3号議案、協議報告事項の4については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開といたしたいが御異議ありませんか。

—————当該議案を非公開と決する—————

教育長 日程第1、第1号議案を議題とする。

学校振興課長 平成30年度福井県公立学校教員採用選考試験を実施したいので、この案を提出する。

(資料1に基づき説明する。)

清川委員 昨年度は専門教育分野での合格者は何人か。

学校振興課長 1名受験したが、採用にいたらなかった。

教育長 昨年度から幅広い教員を集めたい趣旨で、教育エキスパート特別選考を始めた。

学校振興課長 英語教育分野では4名受験して、1名採用された。

清川委員 教育エキスパート特別選考について、今後具体的にどのようにピーアールしていくのか。

学校振興課長 県外の大学、さらに現役の高校生にも教職の良さをアピールしていきたい。県外の大学の先生には個別的に訪問していきたい。

清川委員 秋田県はドクターを採用していると聞いている。福井県も考えてほしい。

教育長 今後工夫していきたい。

南部委員 県外で受験できるか、また、県外者の受験についてはどうか。

学校振興課長 県外では説明会を行っている。受験会場は県内のみである。県外出身の受験者は、163名である。

八田委員 そのうち何名が採用か。

学校振興課長 22名である。

西野委員 エキスパート特別選考での採用者は日本人か。

学校振興課長 日本人である。

教育長 第1号議案について、原案のとおりとすることについて御異議ありませんか。

————承認する————

◎協議・報告事項

(1) 平成29年度福井県高等学校入学者選抜学力検査の結果について

吉井委員 1割程度の正答率の問題や5割程度の無回答率の問題は不適切な問題ではないか。

高校教育課長 以前は特定の学校で9割程度の正答率があり、差がつかなかったために、ここ数年は記述式の問題を多くし、思考力を問う問題を増やした。今年度は選択問題を採用し、対応していきたい。

教育長 高校入試は今求められている力を問う問題で、中学校に向けてのメッセージでもある。問題については今後十分に検討していく。

南部委員 記述式には部分点があるか。

高校教育課長 中間点を設けて採点している。

西野委員 数学はかなり難しかったと聞いている。

学校教育幹 理由や説明を書かせる問題を毎年増やしている。来年度に向けていいものをつくりたい。

企画幹(義務教育) 今後授業を見直し、授業を変えていくことが必要である。学校にも説明していく。

教育長 今までと違って、言葉で説明したり、多くの情報から判断したりする力などが求められている。記述式の問題、簡単な問題、バランスのよい問題を考えていく。

(2) 平成29年3月県立高等学校卒業者の就職状況について

吉井委員 県内、県外の就職人数の内訳はどうなっているか。

高校教育課長 公立高校では、1,342人の就職のうち、県内が1,149人、県外が193人である。

教育長 企業所在地が県外の場合に県外の就職としてカウントしているが、県内で働いている割合は9割程度である。

八田委員 特別支援学校高等部の就職率はどうか。

高校教育課参事 昨年度は卒業生の40%が就職している。それまでは約35%までだったので、いい状況になっている。

教育長 応援してくれる企業が昨年度は100社であった。生徒と企業とのマッチングを行うことが大切である。

南部委員 福井フューチャーマイスター制度とは何か。

学校教育幹 職業系の難しい資格取得に向けて、生徒に半額または2/3の補助を行っている。資格取得や部活動、ボランティア活動等で頑張っている生徒に対してポイント制を設け、金、銀、銅に分けて認定している。この1年半で、1,856名の生徒がフューチャーマイスターとして認定されている。積極的に資格を取得する生徒も増え、就職に役立っている。企業では、フューチャーマイスターに認定されている生徒がうちの企業に何人いるという具合に、福井フューチャーマイスター制度が浸透してきている。

西野委員 早期離職について、企業の説明の信頼度はどうか。

学校教育幹 就職に関しては親の影響が大きい。高校2年生にはインターンシップがあり、9月16日からの解禁後、企業と面談をするので、以前とは早期離職は減っている。今は景気がいいので、スキルアップのために積極的に早期離職する生徒もいる。

(3) 平成29年度全国学力・学習状況調査について

南部委員 調査問題は何か。

課長(小中学向上) 小学校ではA問題が国語算数は20分間、B問題は40分間、中学校ではA問題B問題とも45分間である。

西野委員 算数であるのに算数でないような問題がある。

企画幹(義務教育) 3ページにわたる問題があるので、読み方の工夫が必要となってくる。読む集中力や読解力が必要となる。

教育長 日程第2、第2号議案を議題とする。

企画幹(義務教育) 資料に基づき説明

教育長 第2号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第3、第3号議案を議題とする。

高校教育課長 資料に基づき説明

教育長 第3号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

◎協議・報告事項

(4) 平成29年度高校1年生のための大学進学セミナーについて

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後5時30分